

としょかんぼう

第 23 号

大学図書館に期待すること

近藤 篤俊（図書館長・人間社会学科 教授）

私が大学生生活を過ごした 80 年代の大学図書館は、くしゃみ一つで怪訝な顔をされるほどの厳粛な場所であり、学生では購入不可能である高価な文献資料が保管されている場所でもあり、猛暑・厳寒でも常に快適で、そして古い本が醸し出す独特な匂いがする場所でした。

膨大な書籍や資料の中から必要文献を探すため、独自の文献検索の技術・手法で、文献リストを作成することが、最初の関門であったと記憶しています。

現在の大学図書館は、高等教育と学術研究活動を支える重要な「学術情報基盤」であり、学生や教職員に対して学術情報の収集、蓄積、組織化、提供を行い、教育研究活動を支援する役割は昔も今も変わりません。

しかし、大学図書館を取り巻く環境が劇的に変化し、特に「ICT の急速な浸透」と「AI の劇的な進化」は、単なる書籍の保管場所ではなく「知識と情報の中継地点」としての役割が必然的となりました。

多くの大学図書館が電子書籍やデジタルアーカイブの導入を進めており、利用者は物理的な場所に縛られることなく「どこから」でもアクセスでき、デジタルリソースが重要となります。

また、コラボレーションスペースや学習支援センターとしての機能を加え、グループワークやプロジェクトベースの学習、学生同士の意見交換や共同作業のためのラーニングコモンズを準備しなければなりません。

AI を活用したレコメンデーションシステムや、VR を使った仮想ツアーなどの導入は、図書館をより魅力的な場所とし、利用者満足度の向上が見込まれます。

教育研究成果の共有には、オープンアクセスのリポジトリを整備することで、研究者は自分の研究をより多くの人々に届けることができ、学術コミュニティ全体が発展するでしょう。

分析・評価面では、学外アクセス数、デジタルアーカイブ共有数、リポジトリ参照数などのデジタルデータによる貢献度評価や分析も必要です。

本学の図書館に期待することは、「ICT」「AI」の技術を積極的に取り入れた「知識と情報の中継地点」へと進化することであり、大学図書館を取り巻く様々な問題・諸条件に対して「丁寧に対応」することが重要です。今後も大学図書館の進化は絶対に止めてはならないと考えます。

大学教員として四半世紀以上過ごしてきた経験や成果をもって、これからの大学図書館の発展に微力ながら貢献することができればと思う次第です。



図書館に支えられている「知る自由」

教育学部 教育学科 教授 鈴木穂波

学生の皆さんと接していると、「えっ、そんなことも大学の図書館でしてもらえるの？」と驚かれることが度々あります。利用しないなんてもったいない、そんな大学図書館の機能の一つをあらためて紹介したいと思います。

皆さんは、1 号館 2 階から図書館入口までの廊下の掲示板や図書館の入口付近に、「図書購入希望票」という A5 サイズの紙が貼ってあるのを見たことがありますか。ゼミナールや授業で必要な資料、学習や研究のために図書館に所蔵してほしい資料について、図書館に購入の検討を依頼するための用紙です。所属学科や資料の書誌情報、希望理由を記入して提出すると、購入可能かどうかを記載した回答がここに掲示されます。なんでもすべて申し込むことができるわけではないので、申し込み可能な資料の範囲などについては用紙の裏をよく読んでいただきたいのですが、その範囲内でぜひ活用していただきたい機能です。

私の担当するゼミナールでは 4 回生になると、「文献探索ガイダンス」を図書館で受けます。文献の探索方法をマスターしたあとは、取り組みたい卒業研究のテーマについてどのような参考資料があるのかを調べます。もちろん所蔵されている資料もあるのですが、もっとこんな資料も活用したいというものが見つかれば、この図書購入希望票を提出することを勧めています。絶版、品切れなどで残念ながら届かないこともあります。希望した資料が届くと卒業研究に取り組む学生の意欲もより強まるように感じています。

「図書購入希望」あるいは「リクエスト」という図書館サービスの力を強く感じたのは、中学校図書館の司書を務めていた頃でした。着任した中学校には司書が不在で、図書館はほぼ会議室として使われていました。2 か月かけて整備しリニューアルオープンした日、昼休みになると続々と生徒たちがやってきて、誰も来ないのではという私の不安は杞憂に終わりました。さらに、リクエストボックスには、たくさんのリクエストカードが入っていました。今でも何かに追い込まれるとリクエストカードの束を目の前に悩んでいる夢をみるほど、生徒の要望すべてに応えることはできない苦悩と闘い続けることになるのですが、リクエストした本を手にしたときの生徒たちの嬉々とした姿は今でも忘れることができません。

1954 年に日本図書館協会の総会で採択された「図書館の自由に関する宣言」は冒頭、このようにはじまります。

すべての国民は、いつでもその必要とする資料を入手し利用する権利を有する。この権利を社会的に保障することは、すなわち知る自由を保障することである。図書館は、まさにこのことに責任を負う機関である。

図書館に支えられている「知る自由」。日々の学生生活の中でも、ぜひ活かしていきませんか。



データベースを活用しよう！！

図書館では雑誌記事・論文をはじめ新聞や各種データが検索できるデータベースが利用できます。データベースを使えば効率よく調査でき、情報などを収集することができます。ぜひ活用しましょう。

情報収集に
活用

「ジャパンナレッジ Lib」 膨大な文献・辞書・事典を一括検索できるデータベース

「ジャパンナレッジ Lib」とは、日本大百科全書、日本国語大辞典など辞書や辞典を中心とする 80 以上のコンテンツを、キーワードで一括検索できるデータベースです。あらゆる分野・言語のコンテンツを収録しているため、学部・学科を問わず活用できます。

教育・
人社も
活用

「医中誌」 医学・薬学及び関連分野の論文情報を検索

1600 万件を超える国内発行の医学・薬学等に関する学術情報を検索できるデータベースです。ニュース記事など文章で検索できる「ゆるふわ検索」など便利な機能もあります。薬学部以外でも、子どもの病気やスポーツのリハビリなど、教育学部・人間社会学部も活用できます。

就活にも
活用

「朝日新聞クロスサーチ」 新聞記事を検索

朝日新聞、AERA(アエラ)、週刊朝日の記事をキーワードで検索できます。時事問題などを調べるのにも便利です。現代用語事典「知恵蔵」も検索できます。
「時事に強くなる」「就活応援」などの項目もあり面接や試験対策に使えます。

※データベースについては図書館ホームページ『データベース関連』をご覧ください。



司書課程の学生による 第 12 回ビブリオバトル



10 月 24 日、図書館別館閲覧室にて 12 回目となるビブリオバトルが開催されました。6 名のバトルが登壇し、観戦者を前に熱意を込めて本を紹介しました。積極的なディスカッションも繰り広げられました。

チャンプ本

『幼年期の終り』 アーサー・C・クラーク 著 (933.7/CLA)

『すぐやる脳』 菅原道仁 著 (498.39/S)
『風が強く吹いている』 三浦しをん 著 (913.6/M)
『夜が明けたら、いちばんに君に会いにいく』
汐見夏衛 著 (913.6/S)
『しかし火事獅子歌詞可視化』 問松居間 著
『変な家』 雨穴 著 (913.6/U/1)



2024 図書館貸出ランキング

全体部門（同率 1 位）

順位	タイトル
1	動物は世界をどう見るか / 鈴木光太郎 著
1	赤ちゃんは世界をどう見ているのか / 山口真美 著
1	續天台宗全書 14 / 天台宗典編纂所 編

日本の小説部門

順位	タイトル
1	成瀬は天下を取りにいく / 宮島未奈 著
2	成瀬は信じた道をいく / 宮島未奈 著
2	変な家 / 雨穴 著

図書館貸出ランキングでランクインし、ビブリオバトルでも紹介されている『変な家』は 2024 ベストセラー総合 5 位です。年間総合 1 位は『変な家 2』です。(日販調べ) 著者である雨穴のブキミだけど不思議な愛嬌のあるキャラクターと、ミステリーとホラーが混ざったストーリーに引き込まれる魅力的な本です。

『成瀬は天下を取りにいく』も総合 3 位とベストセラーにランクインしていました。図書館では賞を獲った作品や、話題作も所蔵しています。気になる本があれば図書館で探してみましょう。

NIPPAN (日販) 2024 年 年間ベストセラー
(集計期間: 2023.11.22~2024.11.19)
<https://www.nippan.co.jp/ranking/annual/2024/11/29>

図書館の展示について

図書館では季節やテーマに合わせた、さまざまな展示を開催しています。

春には新入生には楽しみながら図書館を知ってもらい、在学生には新たな発見があるように図書館内を巡る展示を企画しています。

冬には司書課程の学生のみなさんのテーマ展示や、新年の抱負を記入してもらえるような参加型の展示をしています。

図書館を新たな発見、興味との出会いの場所、勉強の合間に落ち着ける場所としても活用してください。



利用の
お願い

フセン

付箋を使うときは

文字や絵などの上に貼らないこと

付箋は便利な文具ですが、図書館には古い本や、いろいろな紙質の本があり、文字や絵の上に貼ってしまうと、はがすときに、その粘着力で文字ごと破れてしまうことがあります。

使用の際は空白の部分に貼るなど気をつけるようにしてください。

NEW

教育後援会から本館閲覧室とラーニングコモンズの椅子をご寄贈いただきました。

新しい椅子は落ち着いた青色で、本館閲覧室の雰囲気も変わりました。



受贈資料リスト(学内)受入順(2024 年 4 月～2024 年 12 月)

書名	編著者	発行者	請求記号	寄贈者 (敬称略)
みんな真つぐ伸びたがっている： 皆が支え合って生きる村「アショカランド」実現に向けて	藤大慶著	あうん社	369.4/F	左藤章
次世代に向けた電子図書館の可能性	湯浅俊彦著	出版メディアパル	016.21/Y	木下みゆき 他2冊
口福のレシピ	原田ひ香著	小学館	913.6/H	藤井兼芳 他54冊
源隆国編『安養集』の研究	梯信暁著	法蔵館	188.61/K	梯信暁
平安朝の文学と文化：紫式部とその時代	川村裕子編	武蔵野書院	910.23/H	荒井洋樹 他8冊
今日、誰のために生きる？： アフリカの小さな村が教えてくれた幸せがずっと続く30の物語	ひすいこたろう, SHOGEN[共]著	廣済堂出版	159/H	伊東信樹 他2冊
税金で買った本	ずいの原作；系山岡漫画	講談社	013.1/Z/11	中道厚子 他2冊
経営者柳宗悦	長井誠著	水声社	750.21/N	岡佐智子

上記資料のほか、学内外より 236 冊の資料を受贈いたしました。心よりお礼申し上げます。

としょかんぽう 23 号
2025 年 4 月 1 日発行
大阪大谷大学図書館

〒584-8540
大阪府富田林市錦織北 3 丁目 11-1
TEL0721-24-1015 FAX0721-24-1176